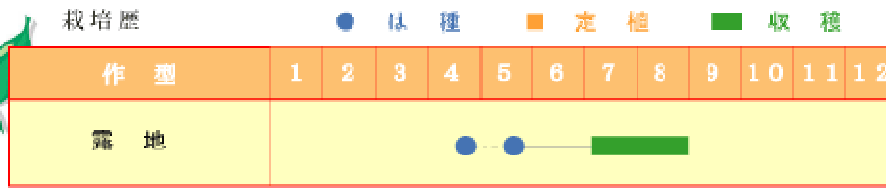
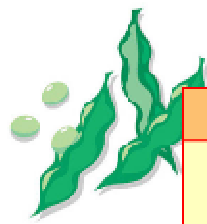


エダマメ



栽培ポイント

- (1)作型に応じてビニール、ユーラック、タフベル、寒冷しゃ等の被覆資材を使い分け、保温、風害対策を行います。
- (2)窒素肥料の多用により、過繁茂、着莢不良が発生しやすいので控えめに施用します。

品種・播種

- ・露地栽培では早生、中生種を用いましょう。
- ・4月下旬～5月下旬
- ・は種後は鳥害を防ぐため、発芽揃いまでは不織布等をべたがけすると良いでしょう。

ほ場整備

■ 施肥

基肥は、は種の15日前に全面に施用し、良く耕しておきます。

窒素過多にすると、徒長して着莢、実入りが悪くなるので、前作の残肥を考慮し適正量を施します。基肥の窒素成分は5kg前後とし、直まきでは施肥量を2割程度減らしましょう。

■ タネバエ対策

マルチング前に殺虫剤を散布し土と良く混和しておきます。

栽植様式

■ 栽植密度

露地栽培は、株間30cm、条間60cmの1条植えとします。

栽植後の管理

■ 温度管理

3月中旬以降には種する場合は、ユーラックとタフベルによる2重被覆とします。被覆資材は気温の上昇に応じて徐々に取るが、ユーラック、タフベルの除去は、開花時期と重なると低温・風害が発生しやすいので、着莢を確認してから行います。

■ かん水

開花時に乾燥すると生育、着莢が悪くなるので、通路にかん水します。

■ 追肥

開花が終わった後に行います。

■ 中耕・培土

本葉3枚と6枚時の2回、除草を兼ねて軽く行います。

主な病害虫と防除対策

べと病、アブラムシ、ハダニ、ダイズサヤタマバエ、などの防除を行います。薬剤散布は開花中は葉害が出るので避けます。

収穫

開花後35～40日を目安に、莢が退色しないうちに収穫します。収穫適期が短いので、収穫はやや若どりで始め、莢の品温の低い早朝に行います。